

令和元年度 第29回全国女性建築士連絡協議会 アピール

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、今年で29回目を迎えます。女性委員会を立ち上げられました初代の女性委員長はじめ、連合会会長および女性委員会担当副会長、各都道府県建築士会会長や女性委員会(部会)、そして事務局など多くの方々のご協力とご理解に深く御礼申し上げます。

昨年7月の西日本豪雨では、広島県や岡山県で大きな被害がありました。特に、倉敷市真備町で河川の氾濫や堤防の決壊が起こり、甚大な被害となりました。そして9月には平成30年北海道胆振東部地震により広範囲にわたり土砂崩れが起こりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

協議会では、平成23年の東日本大震災以降、全国各地で発生しました災害の状況や復興支援について毎年ご報告いただいております。年月が経っても忘れてはならないという思いと情報発信の継続の大切さから、地域と一体となった防災活動の指針となる事を目指しています。今年は、北海道胆振東部地震、西日本豪雨による被害状況を含め、北海道、福島県、岡山県から現状報告をいただきました。情報を共有し、建築士としてどのような活動が必要か、共に模索してまいりたいと考えます。

さて今回、メインテーマの「未来へつなぐ居住環境づくり」を継続し、一和の伝統技術の継承と創造をサブテーマにいたしました。私たち女性建築士は、和の伝統文化を改めて捉え直し、これからの居住環境づくりに活かしていきたいと考えます。

約250名の女性建築士が一堂に会する一日目の全体会では、有限会社原田左官工業所の原田宗亮氏をお迎えし、伝統技術である左官のこれからの可能性と、若手や女性をプロに育てるには、というテーマでご講演頂きました。

二日目の分科会では、「被災地支援の取組み」「環境共生住宅 心地よい暖かさを求めて」「歴史的建造物と建物再生」「会員拡大へ向けた取組み」「木造塾」「子供と住環境」「高齢社会と住まい」「クリークの再生とまちづくり」の8つのテーマのもとに熱心に討論を進めました。それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士としての視点、生活者としての視点から、住まいづくり、まちづくりを考え、未来に続く豊かな居住環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として、和の伝統技術の継承と可能性を再認識し、次世代の育成を目指すとともに、受け継がれてきた地域の技術や素材を積極的に活用することに取り組んでまいります。
3. 私たちは、継続してきた災害報告等を通し、女性建築士として、復興支援のあり方や地域における適切な防災活動と、これからの安全な暮らしを考えていきます。
4. 私たち女性建築士は、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、豊かな社会の実現のために日々努力してまいります。